



2025年2月14日

各 位

会 社 名 平安レイサービス株式会社
代表者名 代表取締役社長 山田 朗弘
(STANDARD コード番号: 2344)
問合せ先 取締役管理本部長 土屋 浩彦
(TEL. 0463-34-2771)

(訂正)「2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

当社は、2025年2月7日に公表いたしました「2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」について訂正すべき事項がありましたので、下記のとおり訂正させていただきます。なお、数値データ(XBRLデータ)の訂正はありません。

記

1. 訂正の理由

「2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の記載内容の一部に訂正すべき事項があることが判明しましたので、当該事項を訂正するものです。

2. 訂正の内容 (訂正箇所には下線を付しております。)

〈添付資料3ページ〉

1. 当四半期決算に関する定性的情報
(1) 経営成績に関する説明

(訂正前)

① 冠婚事業

当事業では、コロナ禍を経て新しい生活様式が普及し、よりプライベートな空間や形式にこだわらないウェディングスタイルへの変遷がみられ、よりニーズは多様化しております。その中で、Webを中心に露出を増やすとともにドレスフェスタの開催、屋外広告の増強や刷新を行い施設周辺エリアの告知を強化、フォトウェディングや成人式などの各種衣裳レンタルや写真撮影といった商品の販売強化を行ってまいりました。

その結果、売上高は172百万円(前年同期比23.7%減少)、営業利益は0百万円(前年同期比98.3%減少)となりました。

② 葬祭事業

当事業では、建物貸切型の葬祭施設として2024年11月に「湘和会館北鎌倉」を開業し、順調に施行件数を伸ばしました。

また、故人を生花で囲んで送る「花園」や思い出の品々で人柄を表現する「追悼壇」、オブジェや装飾と生花を融合させた「追悼生花祭壇」、重低音から超高音まで原音を忠実に再現する「オリジナル大型スピーカー」により故人を偲ぶ音楽葬をはじめとした自由葬の提案、ご家族が故人にゆったりと寄り添えるご安置個室「貴賓室」、その他社内製作によるオリジナル商品を通じてご家族の方々の想いを形にする提案を継続して行い、顧客満足度向上に努めてまいりました。加えて、幅広い顧客ニーズに対応するべく「追悼生花祭壇」のラインナップを追加致しました。

教育面では、当社独自となる生前相談の研修であるカウンセリングセールストーク研修、潜在的な想いを当社オリジナル商品を通じて具現化するコンサルティングセールストーク研修を常に現場で行えるよう、管理職に対して改め

て実施するとともにツール刷新を行い推進致しました。また、対応品質改善による生前相談数増加と決定率向上のため、電話やメール相談を一括管理して対応するコールセンター機能を社内に構築致しました。

その結果、当第3四半期連結累計期間において当社主要エリアにおける死亡人口増減率は前年同期に比べ上昇する中、施行件数及び葬祭一件単価は増加したことにより、売上高は6,612百万円（前年同期比5.7%増加）、営業利益は1,941百万円（前年同期比12.6%増加）となりました。

(訂正後)

① 冠婚事業

当事業では、コロナ禍を経て新しい生活様式が普及し、よりプライベートな空間や形式にこだわらないウェディングスタイルへの変遷がみられ、よりニーズは多様化しております。その中で、Webを中心に露出を増やすとともにドレスフェスタの開催、屋外広告の増強や刷新を行い施設周辺エリアの告知を強化、フォトウェディングや成人式などの各種衣裳レンタルや写真撮影といった商品の販売強化を行ってまいりました。

その結果、売上高は172百万円（前年同期比23.7%減少）、営業損失は2百万円（前年同期は37百万円の営業利益）となりました。

② 葬祭事業

当事業では、建物貸切型の葬祭施設として2024年11月に「湘和会館北鎌倉」を開業し、順調に施行件数を伸ばしました。

また、故人を生花で囲んで送る「花園」や思い出の品々で人柄を表現する「追悼壇」、オブジェや装飾と生花を融合させた「追悼生花祭壇」、重低音から超高音まで原音を忠実に再現する「オリジナル大型スピーカー」により故人を偲ぶ音楽葬をはじめとした自由葬の提案、ご家族が故人にゆったりと寄り添えるご安置個室「貴殯室」、その他社内製作によるオリジナル商品を通じてご家族の方々の想いを形にする提案を継続して行い、顧客満足度向上に努めてまいりました。加えて、幅広い顧客ニーズに対応するべく「追悼生花祭壇」のラインナップを追加致しました。

教育面では、当社独自となる生前相談の研修であるカウンセリングセールストーク研修、潜在的な想いを当社オリジナル商品を通じて具現化するコンサルティングセールストーク研修を常に現場で行えるよう、管理職に対して改めて実施するとともにツール刷新を行い推進致しました。また、対応品質改善による生前相談数増加と決定率向上のため、電話やメール相談を一括管理して対応するコールセンター機能を社内に構築致しました。

その結果、当第3四半期連結累計期間において当社主要エリアにおける死亡人口増減率は前年同期に比べ上昇する中、施行件数及び葬祭一件単価は増加したことにより、売上高は6,612百万円（前年同期比5.7%増加）、営業利益は1,721百万円（前年同期比0.1%減少）となりました。

〈添付資料10・11ページ〉

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(3). 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

(訂正前)

II 当第3四半期連結累計期間(自2024年4月1日至2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	冠婚事業	葬祭事業	互助会事業	介護事業	計		
売上高							
顧客との契約から生じる 収益	172,656	6,612,657	—	835,891	7,621,205	17,904	7,639,109
その他の収益							
外部顧客への売上高	172,656	6,612,657	—	835,891	7,621,205	17,904	7,639,109
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	161,333	—	161,333	—	161,333
計	172,656	6,612,657	161,333	835,891	7,782,538	17,904	7,800,442
セグメント利益	642	1,941,001	91,689	26,640	2,059,974	1,155	2,061,129

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	2,059,974
「その他」の区分の利益	1,155
全社費用(注)	△1,004,254
四半期連結損益計算書の営業利益	1,056,875

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(訂正後)

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自2024年4月1日至2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	冠婚事業	葬祭事業	互助会事業	介護事業	計		
売上高							
顧客との契約から生じる収益	172,656	6,612,657	—	835,891	7,621,205	17,904	7,639,109
その他の収益							
外部顧客への売上高	172,656	6,612,657	—	835,891	7,621,205	17,904	7,639,109
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	161,333	—	161,333	—	161,333
計	172,656	6,612,657	161,333	835,891	7,782,538	17,904	7,800,442
セグメント利益又は損失(△)	△2,378	1,721,638	91,689	26,640	1,837,589	1,155	1,838,744

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,837,589
「その他」の区分の利益	1,155
全社費用(注)	△781,869
四半期連結損益計算書の営業利益	1,056,875

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

以上